essay

アメニモマケズ

渡島大野農業協同組合

営農指導課長　小　島　興　代

「雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けず、丈夫な体をもち……」の宮沢賢治の詩になぞらえて、組合員とのふれあいの一端を記す。

官庁や大手企業は、週休二日制や夏休みを実施している。身近かな青果市場も週休二日制完全実施の方向で動いている。

休みは無いよりあった方が良い。農協で新採用職員の募集をしても、週休二日制でないから応募してくれない時代となってしまい、後継者対策のためにもやらざるを得ないだろうと、いま四週六休を試行的に実施している状況下である。

加えて農家の子弟が応募しない。日ごろ農協職員の姿を身近かに見ているからで、三Kとか六Kとかいわれている農協に我が子は……ということで敬遠している。

ところが、よそさまの子弟なるが故の農協職員への風当たりは旧態依然で軟化していない。

いま、青果市場の週休二日制で野菜生産者は、体が楽になるかといえば、そうではない。野菜の計画出荷をキチンとやらなければ、産地という指定席はすぐ失ってしまうご時世になったから大変なのである。

休みたくとも休めない。

ならば、地域で、集団で輪番制で休みをとる工夫をと、農休日設定がもちあがっている。

丈夫な体だって生身の体、心の休みも必要なのだ。誰も他人の健康まで面倒みてくれない。後継者対策、農協対策のためにもやろうではないか。やれない、出来ないと愚痴をこぼすより、まず行動を起すべしと若手組合員の尻を叩くことしきり。

「東に病気の子供あれば……西に疲れた母あれば……南に死にそうな人あれば……北に喧嘩あれば……」これはもう東奔西走の典型的なものである。

略歴

昭和14年　サハリン（樺太）に生れる。

同　22年　引揚げ。小・中学校８回の転校で大野町に定住。

同　39年　渡島大野農協に入組。営農、販売、営農、生産資材、教育情報、営農と現在に至る。

わが課の職員だってそうである。

ネギに変な病気がついたから見に来てくれ、稲刈適期はいつなのか、農協から買った種子の発芽が悪いから見に来てくれと、全く同じなのである。

行きます、行きますとも、行かなければ営農指導は、農機は、農協職員はと言われるくらいなら行きますとも、と意地を張っている。

でもちょっと待って。

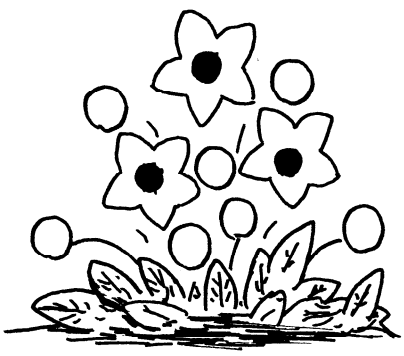
隣近所に、地域に、集団の立派な先輩が沢山いるじゃないですか。その人がたに相談してみて下さいと話を返すが、結局は行くことになってしまう。

「日照りの時は涙を流し、寒さの夏はオロオロ歩き……」は、昨年の天候みたいだ。

異常気象という名は、もう異常ではなく通常みたいになってしまった昨今である。

今年は、エルニーニョ現象の影響大とか言われている。

異常気象の原因は、誰かさんの大気汚染なのか、自然破壊によるものかは別として、クリーン農業を目指す北海道、そしてわが町、わが村の農畜産物が、消費者の口ぐちに、ふるさと農業、自然のおいしさを味わってもらおうと、いま見直し実践中である。

企業進出、宅地化が進むなか、農業を、農家を、農協を語れる仲間づくりに励もうと心している。

「ソウイウモノニ、ワタシハナリタイ」